

処分される犬を救え

金沢のボランティアで里親探し

情報 ネットで提供 協力者も募集

保健所に保護された犬たちを、その後の処分から救おうと、金沢市の池田裕美子さん(24)がボランティアで里親探しを始めた。この1カ月で5匹の引き取り手を見つけた。しかし、保健所には毎週20〜10匹が持ち込まれる。一人では限りがあり、仲間を募っている。保健所側は「処分はしのびない。適切な引き取り手に譲るのは大歓迎」としている。

金沢市内を除く県内の保健所が捕獲したり、引き取ったりした犬は、県の南部小動物管理指導センター(小松市日末町)に集められる。00年度は捕獲が684匹、飼い主の持ち込みが538匹あった。飼い主が「育てきれない」と子犬を持ち込むことが多い。同センターは新たな飼い主が見つければ譲っているが、ほとんどが毎週金曜日に処分される。

一方、ペットショップで売られる犬は高価で手が出ないという人々には、同センターの情報が入りにくい。愛犬家でパート事務員の池田さんは今年2月、こうした食い違いを知った。そこで、保護されている犬を一時預かり、情報をインターネットで流して里親を募ることを始めた。

これまでにゴールデントリバーやマルチーズなど5匹を預かった。病気の犬は獣医にみせて快復させ、みな県内と茨城県、滋賀県の希望者に譲った。

池田さんは「幼いころからの思いをいま果たしたい」と話し、里親探しに協力してくれる人や引き取り手を募っている。問い合わせは、動物・自然保護団体「プラーナ」(本部事務局・神戸11078・302・5255)を通じて池田さんまで。譲る際には確実に引き渡すため、対面することになっている。



保健所から引き取った子犬を抱く池田裕美子さん。金沢市内で新しい飼い主が見つかった。金沢市の自宅。